

## ヨーロッパの鳥インフルエンザ

(2005年11月1日)

A.P 記者 (フランス)

- ✦ なぜヨーロッパでは鳥インフルエンザは深刻な問題だと思われていなかったのでしょうか？

約2・3年前アジアで鳥インフルエンザが発見され、現在A P E Cの国家元首は対策を考えています。しかし、ヨーロッパでは、2005年の9月まで鳥インフルエンザのことは全然考えられませんでした。

9月より前はニュースであまりとりあげられなかったのですが、最近はフランスのテレビでほとんど毎日発表されています。それはなぜでしょうか？

実は、2005年の夏まで、鳥インフルエンザで人が亡くなっても、それはタイやインドネシア、つまりアジアの国だけでした。ヨーロッパ人の考えとして、アジアはとても遠いので、あまり気にしていませんでした。



- ✦ 鳥インフルエンザはどのようにヨーロッパに近づいたのでしょうか？

しかし、2005年夏にまずロシアで鳥インフルエンザのせいで死んだ鳥が見つけれ、少し心配になったので、渡り鳥の経路が調べられました。そのあと、ルーマニア、そしてトルコでも死んだ鳥が検査をされ、鳥インフルエンザが見つかりました。

さらに、ギリシアでもイギリスでも鳥インフルエンザで死んだ鳥が見つかり、2005年10月頃、欧州連合の首相と大統領の特別会談が行われました。鳥の輸入が禁止されるという話もありました。このような対策はまだ実施していないのですが、各国は準備を始めています。



#### ✦ 鳥インフルエンザ対策として何が提案されているのでしょうか？

ドイツを例にとれば、2005年10月の初めからドイツ全国の鶏は法律で外に出るは  
いけなくなりました。フランスでは鳥の狩りも先週から禁止されました。

さらに、鳥インフルエンザに対する薬又はワクチンがありませんが、各国の政府が普通  
のインフルエンザを治す薬の買い置きをしています。しかも、ヨーロッパ全体のレベルで  
対策が行われています。

ヨーロッパの人々、特にフランス人は、だんだん鶏肉を食べることを止めています。そ  
の結果、鳥インフルエンザは経済危機をもたらし始めているようです。

現在のニュース（2006年1月の終わり）では、鳥インフルエンザはトルコで著しく  
広がり、1月にまた非常に心配な状況になりました。フランスのマーケットや農業イベン  
トに鳥を連れて行くことは禁止されています。それは激しい反対をもたらしましたが、政  
府はこの規制を守っています。

最後に、私の意見としては、鳥インフルエンザが他のヨーロッパの地方に広げないよう  
にこのような対策は必要だと思います。しかし、鶏肉の消費が止まらないように、その対  
策は人々を怖がらせないように気をつけることも必要ではないでしょうか。

(2006-03-06)